

忘れられない総会・懇親会

同窓会の訪れ

第 55 号
編集・発行 飯野三丁目
新潟県村上市 奨学会館内
16番4号 新潟県立
村上高等学校 同窓会
TEL (0254) 53-2779
FAX (0254) 53-2779
印刷 村上印刷株式会社

総会 二五〇名

加藤幹司会長の「今年の総会と懇親会の参加で同窓会の将来が決まる」とかねがね訴えてきた「総会」が定刻開会となった。新・旧年度の「事業・予算」について、承認をいただいた後、事務局の交替が報告され、伊藤・日下の新メンバーが紹介された。次いで、「奨学会館」の抱える問題について、益田茂彦理事長より説明がなされた。要点は「土地の一部売却に進展がないこと」「空き地の活用について、折衝中であること」の二点になる。

なお、奨学会の理事の「渋谷敏雄・佐藤忠」両氏の勇退にもない「阿部昌彦・倉松義男」が理事に加わるようになった。



加藤幹司会長



事務局交代 若返る



ダンス部 公開演技



熱弁 池田恵一氏



盛況 懇親会

好評・アトラクション、部活公開

今年度も快いご協力をいただいで、参加者から「若返った」と素直に喜んでいただいた。「ダンス部OG」の創作意欲に燃えた「佐渡」をイメージした演技には、連覇を続けていた頃の青春が蘇っているような若々しい躍動を感じて、惜しみない拍手が送られた。

学習「村上堆朱の今と昔」

これまで「鮭」「茶」に続いて「堆朱」の講演は、故郷を偲ぶ期待の演題であった。講師の池田恵一氏の整った資料にユーモアあふれる熱弁に一同魅せられてしまった。実生活への注意まで気配りされて、講師の奥の深さを伝えた有意義な内容であった。特に「漆文化の歴史」は、大学の講義を聴いているような感想を抱いてしまった。

懇親会 二七二名

会場に立錐の余地もない盛況となった。

参加者の声

旧中三十四回 伊東 和信

「発想の転換」という言葉があるが、従来、二、三十名の出席者しかなかった総会に、クラブを中核として呼びかけを回ったと、今年も出席者が三百名に足らんとするという盛況です。久しぶりの絆の強さをまざまざと感じました。

生徒のクラブ活動の発表も楽しかった。講演も、鮭・茶・堆朱と村上の特産が続いたが、来年はどうなるのだろう。面白そうなお窓生を招いて話を聞くのも一興かと思う。

全十一回 長谷川久子

「あ、揺れている」同じテーブルのいさと天井を見上げると、シャンデリアがぶらぶらしていた。宴もたけなわになり、私は思い出の歌の指揮を任せ付かっていた。百周年の校歌斉唱以来、渋谷先輩とのコンビよろしく盛況のうち役目を果たすことが出来た。新発田勢は終了後送ってもらった約束だったので、地震の状況が気にながらも無事に帰宅した。家の者は大きな揺れと共に私を心配しながら待っていた。新潟中越地震のその日、十月二十三日は忘れられない懇親会となった。

全十六回 中村 順治

汐美荘の大ホールに入り切れない程の三〇〇名が参加し懇親会が開かれた。なつかしい顔、大先輩方々、頼もしい後輩達と集い、スムーズに進行していた途中、いきなりグラグラと来たではないか！地震だ！司会を担当していた私は、ハラハラしながらもホテル側の情報により震源地は中越地方で村上は震度3だが大丈夫との事で続行した。数度の余震もあったが盛り上った会は、学年・部活・仲間同志と自由に交流され、飛び入り芸や福引等もあり更に盛り上った。予期せぬ事態もあった一時間も無事過ぎ、又来年度再会出来ず事を願ひながらの散会となった。

全十六回 中村 行善

総会のアトラクションの感想ですが、

ダンス部OGによる熟練のよさは迫力がありました。また現役の創作ダンスは人間の平和を願う荘厳な雰囲気の中に若さと躍動感を感じました。吹奏楽部の音楽も心癒されるひと時でありました。同窓会とは無縁と思っていました。総会幹事の卒業年度に当たり、総会開催準備の機会をいただきました。同窓会事務局、役員諸氏のご努力に触れ、村上高校卒業生である事を誇りに思う同窓会総会でありました。

全四十六回 長谷川 卓

「ぜひとも盛大な会にしたい」という心意気にこたえたいと思ひ、今回初めて出席しました。想ひは通じたいへん大勢集まりました。

出席して一番良かったこと、それはソフテニス部の二十期先輩の方々にお目にかかれたことです。指導を受けた恩師は異なるが、部活動を軸に話ができたとはいっても有意義でした。

新体制の発足

会則に則り、役員改選が行われ、新陣容が総会において、左記のように承認された。

- | | | |
|------|--------|--------|
| 会長 | 加藤 幹司 | 富樫 勇巳 |
| 副会長 | 尾崎 絹子 | 佐藤 寛司 |
| | 益田 茂彦 | 中村 順治 |
| | 岩倉 幸治 | 明間 万亀子 |
| 顧問 | 栗山 修 | 飯島 久 |
| | 江見 靖彦 | 長谷川 伸次 |
| 常任理事 | 佐藤 信 | 中島 隆 |
| | 内山 熙 | 高杉 晋平 |
| | 大平 紘一 | 澤野 俊彦 |
| | 飯沼 三太 | 渡辺 千早 |
| | 日下 正平 | 稲葉 富貴雄 |
| | 高橋 茂美 | 小田 洋一 |
| | 滝沢 和香子 | 村山 誠 |
| | 山貝 省一 | 伊藤 初男 |
| | 小杉 和也 | 初男 潤 |
| | 野沢 裕美子 | |
| 事務局 | 伊藤 初男 | |
| | 日下 潤 | |

是非、同窓会費の納入にご協力を願ひします。

新潟県立村上高等学校「同窓会総会・懇親会」のご案内

今年も、行けば誰かに会える

一期日 平成十七年十月二十二日(土曜日)午後一時から

一 会場 村上高等学校大体育館

一 議事 平成十六年度事業報告・決算報告
平成十七年度事業計画(案)・収支予算(案)

一 部活公開 母校ダンス部・吹奏楽部(予定)

一 講演 講師 テレビディレクター・鶴橋康夫氏(全十回)

懇親会

一 会場 瀬波温泉 大観荘

一 会費 五千円 当日、徴収させていただきます。

一 その他 アトラクション
「部活・同期」別の席を設けます。
連絡は九月末日まで各代表または、事務局まで。

懇親会後、十五名以上利用の場合、新発田までマイクロバスでお送りいたします。
多数のご参加お待ちしております。



ご挨拶
村上高等学校同窓会
会長 加藤 幹司

同窓会の運営につきましては、皆様から何かとご協力を頂き心からお礼を申し上げます。昨年は同窓会総会中に突然地震が襲来し驚きもなかつたが、故郷村上はさしたる被害もなく『同窓の訪れ』を予定通りお届けできます事を楽しんでいます。又このたび待望久しき創立百周年記念事業の集大成とも言える『村上高等学校百年史』が漸く刊行の運びとなりました。長期にわたり執筆編纂に当たられた委員の方々に敬意を表しますと共に心からお礼を申し上げます。どうぞこの機会に村高百年史に触れられて母校との絆を一層深めて頂ければ幸いです。昨今村高を取り巻く教育環境は厳しいものがあります。在校生を励ます意味でも今年の総会に参加し盛り上げて下さいませよう心からお願致します。(全十三回)



同窓の訪れにやせて
村上高等学校
校長 栗山 修

昨年の同窓会総会は三百名と多くの出席をいただきました。会長はじめ役員の方々の御陰で年々盛大な同窓会が開催されますことを大変喜んでおります。五月は新発田支部の総会として六月は関東支部の総会に参加させていただきました。同窓の方々の温かい歓迎をいただき感謝申し上げます。皆さまの母校や故郷に寄せる熱い思いを強く感じてまいりました。村高の生徒は明るく、素直、元気が挨拶がよい。遅刻する生徒もなく、始業のベルと共に授業開始。一方放課後には教室や体育館・グラウンドのあちこちから部活動に励む生徒の歓声が聞こえてきます。六月中旬に体育祭が催されます

同窓会支部だより

新発田支部

新発田支部副支部長
全六回 相澤 節子

昭和三十四年に結成された新発田支部も、諸先輩の御尽力により活動も活発化して来ています。

本年度の総会も四月二十九日、学校長栗山修先生はじめ同窓会副会長尾崎絹子氏、同事務局長伊藤初男氏をお迎えし開催されました。

事業計画も審議され、岩船地域の「都岐沙羅の陶芸体験」に決まりました。(当支部では、毎年会員の親睦を図りながら見学や体験等をする事業を実施して来ています。)

総会終了後、涌井廣作氏(全三回)の講演「新発田藩と新発田城のあれこれ」を拝聴しました。同窓会員による講演はなかなか好評で各方面で活躍している方々が、一年のクラスも三年のクラスも競技・応援・マスコットなどの部門をクラス単位で競うのは昔のまま。

三月の卒業生の進路状況は、国立大学の合格が大幅に増加し進学率が上昇した昨年三月とほぼ横並びの状態、進学校として上昇機運に乗ってきたところでしょうか。部活動では、昨年に続きバレー部・柔道部・陸上部が県大会で優秀な成績を修め北信越大会に出場をはたしました。同窓生や地域の支援をいただきながらやってまいりました山北分校は、県の整備計画で昨年度から募集停止、十八年三月にその歴史に幕を下ろす運びとなっています。同窓の皆様には今後とも母校に対する変わらぬ御支援をお願い申し上げます。(全十七回)



恒例の懇親会も来賓を交えて行われ、青春時代へタイムスリップしたり会員の情報交換等で盛り上がりを見せました。

ファイナーレは校歌。校歌に謳われているあの願い、あの論と今の自分の人生の軌跡とを重ね合わせながら声高らかに歌っている同窓会員の姿はみな輝いておりました。

新発田支部は、これからも会員相互の親睦と母校の発展とを願いながら活動を続けて行くつもりです。

中京支部

全九回 大嶋 武夫

中京支部今年度の総会は、愛知万博閉幕後の10月16日(日)開催の予定で準備中です。

昨年度は開かずじまいで、今回ご報告できませんので、中京支部と係わり始めた当時は回顧してみたいと思います。

中京支部の創設が何時なのかは分かりませんが、今から42年前の昭和38年11月17日、当時の東海銀行主税町クラブに、村田錦一(旧中20)さん、西坂誠三(同35)さん、中倉務(全3)さん、山脇弘晴さん、坂野上義さん(いずれも全7)、押切助衛(同8)さんとともに15名が寄り合い、支部の創設だったか、休眠状態からの再生だったかは忘れてしまいましたが、とにかく総会懇親会を開いて中京健在の



意気を示そうと衆議一決。翌昭和39年7月11日、名古屋市中区栄の旅館「さくらや」の二階座敷で開催しました(写真)。

参加者は26名。この会場は、幹事役だった村田さんに頼まれて私が手配したのですが、終戦直後に建てられた木造の安普請で、エアコンなどはなく、茹だるような暑さの中で窓を開け放ち、大いに飲み、歓談したことを懐かしく思い出します。

すでに鬼籍に入られた方もおられますが、この当時は想い起こして、後世に引き継いでいかなければならないと自省しています。

関東支部

全十八回 濱中 壽子

同窓会の皆様こんにちは。今年度関東支部総会・懇親会の実行委員長をおおせつかりました十八回卒業の濱中壽子と申します。諸先輩方に助けて頂きながら実行委員長に力をお任せ、会も無事盛會裡に終りホッとしております。

総会・懇親会は六月十八日土曜日、午後一時から昨年度と同じ会場、JR四ツ谷駅すぐ近くのスクワール麹町「錦華の間」で開催いたしました。三名の副会長、母校学校長等七名の来賓の方々をお迎えし、百二十余名の参加のもと、総会の議事進行も順調に行われ、次は大洋盛の鏡を「エイ！エイ！エイ！」のかけ声で勢いよく割って、皆様お楽しみみの懇親会です。今年度は、よく見知った方々と懐かしく声をかけあえるようにと、卒業年度の近い人でテーブルを囲み

み歓談して頂きました。なごやかに楽しく歓談して頂けたのではないかと思っております。

今年度のアトラクションは、まず最初に童心に返つてのジャンケンゲームです。舞台上で三人で行った決勝戦。最後の勝者は、全員からの百円玉のプレゼントを手に、とつても嬉しそうでした。

次は、お楽しみくじです。受け付けの時にもらった半券を手に、ひかれた番号が自分の番号と合っていないか待ちながら、盛り上がりしました。あつという間に、アトラクションも終わり、次年度実行委員(十九回生)の紹介。そして、村高時代を懐かしく思い出しながら



村上高等学校同窓会関東支部総会
から全員での校歌斉唱。十九回卒業生、元音楽クラブ安富成良さんの指揮のもと、高らかな歌声が会場いっぱいになり、満ちたところで、名残惜しくも閉会の挨拶です。「また来年も、皆さん元気で会いましょう。」の言葉で会は終了致しました。すぐには立ち去りがたい余韻を残して。

帰りには「富士美園」の新茶、「大洋酒造」の大洋盛、「酒田屋」の銘菓しやぎりのおみやげセットを持って帰ってもらいました。そのおみやげセットを見ながら、おうちでは、遠く離れている村上に思いをはせ、村上の話に花が咲いたことと思えます。

会に参加していただきました方々の、一人でも多くの方が、村上を思いながら楽しんでくださつたのではないかと嬉しく思いますと同時に、皆様に感謝致しております。

関川支部

旧中四十五回 伊東 正夫

たのしみは心をおかぬ友だちと笑ひかたりて腹をよるとき

年が移り、2月12日、今年も楽しい同窓会の語らいを、高瀬は「ますや旅館」で持ちました。村高同窓会関川支部総会・懇親会は次の方々で盛会でした。(敬称略)

富樫清弥(旧中36回)、山口圭逸(40回)、伊東正夫(45回)、加藤善吉(全2回)、佐藤貞治(6回)、阿部勉(8回)、佐藤勝利(14回)、石山善一(16回)、伊藤保史(26回)、稲家誠(28回)、近良平(29回)、佐野克弘(34回)、渡辺衛(34回)、田村清洋(43回)、市井隆範(45回)、野沢尚史(47回)、加藤龍(47回)。

永年ご功績のありました高橋重右工門先生(旧中31回)が、支部長辞任の願いを出され、ご意思は固く残念でしたがお受けすることとし、支部長代行を伊東正夫が勤めることとなりました。

また、平田大六村長をお迎えし一層盛り上がりしましたが、今年脳神経外科の佐野克弘医院長から年相応に気を付けなければならぬことを、神妙にお聞きして有意義でした。

なお、今年度の支部総会・懇親会開催にあたりまして、まずや旅館の渡辺衛君に一切のお世話をいただいたことを感謝しております。

会費納入は、直接、事務局も可。ただし、水・土・日は休館。

母校だより

◆本校

平成十六年度も三月四日に二七三名の生徒が卒業し、同窓会に加えていた、たぐこととなりました。卒業生の進路先ですが、詳細は進路指導部の報告をご覧くださいと思います。

さて、本校の近況ですが今年度より残念ながら少子化の影響などで一学級減となつてしまひ、一年生は六学級二七三名でスタートしました。また、平成十五年より始まつた新教育課程も今年の三年生で初めての卒業生を出すこととなります。今までの授業展開や放課後の補習などを再検討し、多様化する新入試制度に対応した教育体制を確立するために進路指導部を中心に全力で取り組んでいるところです。次は部活動の結果報告です。今春の各種大会でも日頃の活動の成果を發揮し好成績を上げています。男子バレーボール部、陸上部、柔道部が県大会を勝ち抜き北信越大会への出場権を得ました。特に男子バレーボール部は県大会の決勝に進出し、惜しくも敗れましたが堂々二位となり中部日本大会出場権をも獲得しました。文化部では最近、吹奏楽部の活動が目立ちます。早朝から放課後遅くまで、毎日学校に楽器の音が鳴り響いています。今後、様々な演奏会で練習の成果を發揮してくれるものと思います。

さて、学区の変更や学級減、村上中等教育学校の高等部スタートなど、本校を取り巻く環境は多様化しています。今年度は本校にとつて様々な意味で節目の年となると思います。同窓生の皆様や地域の方々の期待にこたえられるよう、教育内容の一層の充実を目指し職員一同努力していかねばならないと考えています。同窓生の皆様のご協力とご鞭撻の程よろしくお願ひします。

◆山北分校

いよいよ山北分校は、閉校年度を迎えました。平成十八年三月をもつて、定時制課程から出発し、五十八年間続いた分校教育に幕をおろすこととなります。昨年度より「山北分校閉校記念事業実行委員会」が組織され、記念事業や記念式典等の準備が事務局を中心に進行中です。閉校記念式典及び惜別の会は、きたる十一月五日に行います。本校吹奏楽部にもご協力を頂くことになっていきます。今後とも同窓会の皆様にご理解とご協力をお願いいたします。

進路状況

進路指導部

◆今春の卒業生の進路結果

まず、この三月に卒業した三年生の進路状況について報告します。国公立大学進学者は三名で、昨年同様に三十人台を維持することができました。また、久々に東北大学への合格者が出たのも特筆すべきことでしょう。私立大学への進学者は九四名で、これも昨年とほぼ同数です。但し、早稲田・中央などの上位私立大の入試は苦戦を強いられました。短期大学は三名で昨年より増加しました。その半数が県立女子短大・青陵短大など新潟の短大です。専門学校についてはこれも五五名で昨年より増えました。県内の高等看護専門学校進学者は減少しましたが、一般の専門学校進学者が増加しました。この中には、入学当初の進路希望が大学進学であったのに、学力が伸びずに専門学校に進まざるを得なかった生徒も多数おりました。今後の課題としては、いかに専門学校流出組を減らすかです。一方、公務員・就職については、

が、実に良い結果を出すことができた。七月下旬には、中条町でカヌー体験や救命救急講習を実施しました。十一月には、山北町勝木川における鮭漁法と鮭加工を学ぶ予定です。

◆在校生の状況

現在の在校生は三学年から一学年まで、いわゆる「ゆとり教育」の教育課程を受けてきた世代です。旧課程の生徒と比べると「総合学習」を履修していることもあり、自分の考えをはっきり発言出来、関心のあることには熱心に取り組む傾向にあるのですが、その反面、興味・関心のないことには取り組みが遅れ、また、物事を自分の都合の良いよう楽観的に解釈するという傾向にあります。受験についてはこれらの性質が悪く作用する場合もあります。例えば、今年の三年生は河合塾の衛星放送講座を受講する生徒が激減

した。公務員では昨年度はわずか一名しか合格者を出すことができませんでしたが、今春は県職員・裁判所の事務官をはじめ延べ五名の合格者を出すことができました。また、民間企業においても、地元の実業所を中心に八名就職することができました。昨今は大学に進学するよりも就職が難しい状況ですが、生徒は早めから担当の教員の指導のもと、ねばり強く課題に取り組んだ成果といえます。

折りしも、村上中等教育学校が地域のみならず全県から注目されています。これから村上高校は常に村上中等教育学校と比較されることになるでしょう。村上高校が今後とも下地域で存在意義を示していくためには、何としても、これら「ゆとり教育」組の生徒の受験に対する甘い考えを是正していく必要があるのです。

した。七月下旬には、中条町でカヌー体験や救命救急講習を実施しました。十一月には、山北町勝木川における鮭漁法と鮭加工を学ぶ予定です。一方、平成十六年度の卒業生は二十九名でした。私大一名、専門学校十一名、就職者十七名と一人の進路未定者もなく山北分校を巣立っていきました。フリーターやニートと呼ばれる若者が社会問題化している中で、二十九名の卒業生は立派であつたと考えています。本年度の二十二名の生徒が、来年の三月には大きく成長し、逞しい姿で巣立って行くことを期待しています。

種別	国公立大	私立大	国短大	私立短大	専門学校	公務員	民間就職	浪人	その他	合計
男	22	54	0	1	28	2	3	29	3	142
女	9	40	9	22	27	2	5	16	1	131
合計	31	94	9	23	55	4	8	45	4	273
%	11.4	34.4	3.3	8.4	20.1	1.5	2.9	16.5	1.5	

平成17年度の進路状況

折りしも、村上中等教育学校が地域のみならず全県から注目されています。これから村上高校は常に村上中等教育学校と比較されることになるでしょう。村上高校が今後とも下地域で存在意義を示していくためには、何としても、これら「ゆとり教育」組の生徒の受験に対する甘い考えを是正していく必要があるのです。

運動部結果



◆北信越大会

- バレーボール部 (男子) 2回戦2-0 (高岡第一・富山)
- 柔道部 (女子) 「個人」 準々決勝0-2 (岡谷工・長野)
- 柔道部 (女子) 「個人」 63kg以下級 5位 吉村直美
- 陸上競技部 (男子) ハンマー投 12位 和田泰規
- ◆県大会
- バスケットボール部 (男子) 3回戦55-75 (長岡)
- バスケットボール部 (女子) 2回戦27-108 (東京学館新潟)
- バレーボール部 (男子) 決勝0-2 (上越総合技術)
- バレーボール部 (女子) 2回戦0-2 (帝京長岡)
- 卓球部 (女子) 「個人」 シングルス 露崎彩乃
- ダブルス 露崎・本間組
- バドミントン部 (男子) 「団体」 3回戦0-2 (長岡商業)
- バドミントン部 (男子) 「団体」 2回戦0-3 (新潟第一)
- バドミントン部 (女子) 「団体」 1回戦0-3 (有恒)
- サッカー部 2回戦0-1 (巻)
- 柔道部 (男子) 「団体」 予選リーグ敗退
- 柔道部 (女子) 「団体」 バスト8
- 弓道部 (男子) 63kg以下級 準優勝 吉村直美
- 弓道部 (男子) 「団体」 予選敗退
- 弓道部 (女子) 「個人」 準決勝敗退 中山卓也
- 弓道部 (女子) 「団体」 予選敗退 渡邊敦
- 剣道部 (男子) 「団体」 予選敗退
- 空手道部 (男子) 「団体組手」 3回戦0-5 (燕) バスト8
- 空手道部 (男子) 「個人形」 バスト8 菅原貴幸
- 空手道部 (女子) 「団体組手」 2回戦0-4 (新潟)
- 陸上競技部 (男子) ハンマー投 3位 和田泰規
- 陸上競技部 (男子) 100m 準決勝敗退 加藤泰樹
- 陸上競技部 (男子) 5000m 3位 錦織哲
- 陸上競技部 (男子) 4x400mリレー 9位 水澤・大滝・板垣・加藤
- ダンス部 創作コンクール部門出場
- テニス部 (男子) 「団体」 1回戦1-2 (中越)

今年も同窓会総会・懇親会を みんなで成功させよう!!

平成17年度同窓会総会は7回生(7の付く回生)が当番幹事の担当です。

〔注〕第7回(昭30年卒)・第17回(昭40年卒)・第27回(昭50年卒) 第37回(昭60年卒)・第47回(平成7年卒)の皆さんです。

特に地元同窓生の皆さんのご協力をお願いします。

合同打ち合せ会 とき 10月2日(日)午後3時より

ところ 村上高等学校校友会館大ホール

